

人は好むと好まざるとにかかわらず、聞く・話すの繰り返しで暮らしています。会話に必要な耳、口、目は、良くも悪くも、その人の心をそのままを表わすものです。「言葉は翼を持つが、思うところには飛ばない」とは、英国の作家ジョージ・エリオットの至言です。それだけに、普段使っている言葉に注意を払わないと、人を不快にさせかねません。言葉使いのポイントに「簡であれ」というものがあります。つまり、簡とは選び抜かれた言葉です。

A氏が社屋を購入した時、銀行から物件購入の勧めがありました。約百五十坪で四億五千万円というのです。早速A氏は、倫理経営インストラクターF氏に倫理指導を受けました。指導されたのは次の二点です。

- 一、値切つてはいけません。
- 二、交渉の際、余計なことは喋らず、ただ一言「買ってもいいです」とだけ言いなさい。

その後、何度か銀行の支店長から話があるたびに、指導の通り値切らず、「買ってもいいですよ」と返すと、先方が「一千万円値を下げます」「一千万円下げますので……」と自主的に値下げをしてきたのです。その結果、最終的に三億八千万円で契約。当初の金額との差額七千万円分を、内装や備品の費用に充てることのできたというのです。その経緯の裏には、A氏の奉仕の実践がありました。ひとつには、その当時倫理法人会を設立したものの、市内に経営者モーニングセミナーの会場(ホテル)がなく、氏

## 言葉は「人」なり 純情な心を口に出す



え・栗木 映

は自費で新たに会場を建てたのです。倫理法人会の各種会合にも専用で使用できるものでした。先述の倫理指導を担当したF氏は、その一部始終を知って心を動かされ、親身になって相談に応じたといえます。

更に決め手になったのは、「純情(すなお)な言葉」でした。氏の飾らない言葉に、その人柄を銀行サイドが感じ取り、購入代金の減額につながった部分があるでしょう。純情さを育てるシンプルな実践が「挨拶」です。その実践で成果を上げている街があります。埼玉県三郷市のある町内会では、「防犯パトロール隊」が二十年前に編成され、犯罪が激減しています。この隊の生みの親が、吉岡貞義法人スーパバイザー(町内会長)です。

この隊の行なっていることは、実にシンプルです。午前のパトロールでは、道行く人に「おはようございます」と挨拶をし、午後はただ「こんにちは」と言葉をかけるだけです。夜も「こんばんは」のみで、あえてトラブルが起こっていても介入はせず、警察へ連絡を取ります。「挨拶だけやればいいのなら」ということで、町内の住民の参加の輪が広がり、犯罪の抑止への効果が如実に現われています。

世の真理は、実は平易な中にあります。「生きた明るい言葉を使う」「清らかな耳で話を聴く」ためには、常日頃から心を清明にするトレーニングが大切です。そのための自分磨きの場が、倫理法人会主催の「経営者モーニングセミナー」です。朝を活かし、自身を育てる糧としていきましょう。